

**参加者・
地域の協力者の
みなさんの
声**

DATA ▶ 鈴木さん 10代・学生(アメトーク企画者)

このてらまちプロジェクトで私はヒノデ飴を使った企画を地域の人達と一緒に考えた。その他にも数回の個別ミーティングを重ねながら、アメスイーツやアメドリンクの試作も行った。地域の人と密に時間を過ごすのは初めての経験だったため、試行錯誤の連続であったが、とても素敵な経験をさせていただいた。

DATA ▶ 久保さん 琴城ヒノデ阿免本舗

お店の営業があるためイベントに顔を出すなどができず、申し訳なかったです。しかし、てらまちキャラバンミーティングをきっかけに、最近は若い人たちがお店を訪れることが増えたように感じています。昔はこのあたりもお店や飲食のできる場所があり賑わっていましたが、最近は少なくなってしまったので、こうした若い人たちの活動から、地域に活気が生まれていくとよいなと思います。

DATA ▶ 青木さん 20代・会社員(ルナシピック企画者)

てらまちプロジェクトは、グループ毎にアイデアをまとめて終わりではなく、やりたい意志さえあればその先まで、実際に企画を実現させるまでフォローアップしてくれるで、とても心強いです。現在は、イベント内で出た企画を実際に形にしている最中ですが、広報面などで慣れないチラシづくりに苦戦しています。ですが、話し合いを重ねながら着実に進むこの過程がとても楽しいです。企画を成功させるまで、試行錯誤を繰り返して納得いくものにしていきたいと思います。

DATA ▶ 河野さん (公財)尼崎市スポーツ振興事業団 サンシピック尼崎 館長

全5回、無事に終了できて良かったですね。また、サンシピック尼崎から2企画、琴城ヒノデ阿免本舗チームから1企画の発表があり素晴らしいです。これもみなさんのが尽力があったからこそです。本当に疲れました!また、ルナシピックイベント当日は大好評で終了できたように感じました。良かったですね。次回にまたつながるようにひとつひとつを確実に進めていきたいですね。私も最大限の協力をしますので、引き続き「てらまちプロジェクト」を盛り上げていきましょう!



実施期間 : 2018.8.29 - 2018.12.15 @てらまちエリア

新たな地域の 活動が生まれるまで



このレポートでは、てらまちプロジェクトが取り組む、尼崎に訪れたくなるきっかけづくりの一つとして地域に根付いた活動を生む「てらまちキャラバンミーティング」の内容を紹介しています。てらまちキャラバンミーティングでは、プロトタイプする(まずは実践し、そこから徐々に改良していく)ことを大切にしています。てらまちエリアにある資源・拠点・コンテンツに、新しい息吹を。地域づくりやコミュニティデザインに関心のある多様な参加者の方とともに、具体的な活動や企画を検討し、小さく実施していきます。

お問い合わせ

てらまちプロジェクト事務局 (株式会社ライフデザイン阪急阪神)

Tel.06-6373-5394

詳細や最新情報は、てらまちプロジェクトFacebookページ(@teramachi.pj)をご覧ください。

てらまちキャラバンミーティング

主催 | てらまちプロジェクト(尼崎信用金庫+阪神電気鉄道株式会社)

協力 | 公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団、琴城ヒノデ阿免本舗、尼崎市中央地域振興センター、尼崎市社会福祉協議会中央支部

企画運営 | 株式会社ライフデザイン阪急阪神、尼崎ENGAWA化計画

ファシリテーター | 藤本 遼(尼崎ENGAWA化計画)

サポートファシリテーター | 円山 洋輔

てらまちプロジェクトとは?

てらまちプロジェクトは、これから尼崎も、「住み続けたくなる」「訪れたくなる」「移り住みたくなる」「働きたくなる」まちになるように、尼崎信用金庫と阪神電気鉄道株式会社が、阪神尼崎駅南側の寺町・開明町かいわいを中心、市民・地元の方たちと共に進めていくプロジェクトです。



どのようにして、新しい地域の企画が生まれたの？



ファシリテーター
今回のてらまちキャラバンミーティングのファシリテーター（進行役・促進役）は、尼崎ENGAWA化計画の藤本遼さん。サブファシリテーターは、2017年からてらまちプロジェクトに関わっている円山洋輔さんです。ファシリテーターは、参加者の方のアイデアをまとめたり、さらに新しいアイデアを出したりして、話合いを促進します。

01 | 8.29 19:00-21:30 @貴布禰(きふね)神社 コミュニティデザイン・地域の活動づくりの基本を知ろう！

活動をはじめた先輩（坂本恵利子さん（あまままるしげ）、太田洋平さん（護美奉行））をゲストに迎え、話を聞きながら、地域で活動するイメージを膨らませた。また、ファシリテーターの藤本遼さんによるイベントづくり・企画のコツについての講座を実施。



拠点について

サンシック尼崎

阪神尼崎駅すぐ近くの屋内プール、地区体育館、地区会館が集まる複合施設。市民による施設利用、スポーツ教室や料理教室などの自主イベントの開催だけでなく、地域の方が立ち上げた、俳句や絵手紙、ウォーキングなど40近くのコミュニティが登録し、活動を行う集いの場ともなっている。



琴城ヒノデ阿免本舗

尼崎城の城下町があつた名残を今に伝える、100年以上続く老舗の飴屋。日本古来の製法で上質の米だけでつくる水飴や、尼崎城の別名「琴城」になぞらえてつけられた、琴の「琴柱(ことじ)」を模したマークなど、店内には様々なところに積み重ねた歴史を知るきっかけが散りばめられている。



02 | 9.26 10:00-11:00 @サンシック尼崎 / 13:00-14:00 @サンシック尼崎 / 15:00-16:00 @琴城ヒノデ阿免本舗 寺町・開明町エリアの拠点を巡ろう！

3回に分けて各拠点を訪問。実際に場所を見て、歴史やこれまでの取り組み等を伺うことで関わりしろのヒントを探した。



ファシリテーターからのコメント

地域のメリットやニーズを想定したり、捉えたりすることもとても重要なことです。楽しみながら進めていくことが大切。また、地域プロジェクトは活動への関わりしろを広げること、その関わりしろ自体をデザインすることがポイントです。

03 | 10.17 19:00-21:00 @サンシック尼崎 企画ミーティング_1

拠点訪問でヒアリングした内容をもとに、各拠点のチームに分かれて自身の興味関心やスキルと紐づけながら、拠点との関わりしろや企画のアイデア出しを実施。



04 | 11.15 19:00-21:00 @サンシック尼崎 企画ミーティング_2

各チームで考えた企画を全体で共有し、意見交換とアイデアのブラッシュアップを実施。プレゼンテーションに向けて、企画アイデアの絞り込みを行った。

ファシリテーターからのコメント

進めていく中で現実的な「壁」が出てきます。資金面、人材面、スキル面、立地面など、いろいろな制約が出てきて、当初のアイデアの広がりからは縮小していくように感じます。しかしそういった制限がある中でこそ、より工夫やクリエイティブさが生まれてきます。

+A | チーム個別会議_2

発表する企画の具体的な内容を詰めるとともに、プレゼンテーションの資料作成を進めた。

+A | チーム個別会議_3

プレゼンテーションに向けて最終調整、発表準備を進めた。



前回の企画ミーティングの内容をふまえ、各チームで具体的な企画案を作成。

誕生した企画とこれから

「アメトーク」 | 琴城ヒノデ阿免本舗

琴城ヒノデ阿免本舗の水飴と、狂言や一休さんのお話にもある「附子（ぶす・水あめの毒）」のエピソードを組み合わせたイベント。水飴ドリンクやスイーツ（アメ）を楽しみながらトークイベント（トーク）を実施する。一休さんの遺した「大丈夫。心配するな。何とかなる。」という言葉を「挑戦の言葉」と捉え、若者を主なターゲットとして「悩んでいる現状などから前を向き、自分を信じて挑戦すること」をテーマに開催。

Point

ヒノデ飴と一休さんのエピソードの組み合わせ

一休さんのエピソードを引き合いに出し、彼の遺した言葉を再解釈して現代に提案するという発想がこの企画の鍵になっている。歴史や文化的な物語と接続することは重要なポイント。水飴を始めたことのない若者との接点をつくろうとしている。

Now?

ヒノデ飴を使った企画は、講座終了後、寺町にある大覚寺の岡本住職との打合せ等を経て、大覚寺信徒会館で2019年5月10日（金）に開催されることになりました。



05 |

12.15 14:00-17:00

@尼崎市商工会議所

てらまちキャラバン ミーティング プレゼンテーション 2018

琴城ヒノデ阿免本舗から1案、サンシック尼崎から2案の発表を実施した。各チームともヒノデ飴を用いた試食も提供。発表後は来場者も交えて企画に対する意見交換を行い、今後のトライアル実施を見据えた関わりしろや仲間づくりの場となった。

ファシリテーターからのコメント

小さな一步を企画していくこと。最初から大きな目標をとると尻込みしてしまうですが、今できることができるメンバーで進めていくことが肝要。具体的にひとつずつこなしていく。仲間がいることが、歩を進めさせてくれます。



「可能性のかたまりたち」 | サンシック尼崎

施設の見学やヒアリングをする中から見えてきた、「少しここを改善すればもっとよくなりそうでは？」という気づきから発案された。施設の利用には3か月前に予約抽選を行う必要があるという決まりを逆手にとって「先に場所を確保してから、当までの3か月間でコンテンツを企画してしまおう！」というアイデアが生まれた。

Point

あえての余白づくり

既存の団体の活動に加えて、新規の企画や活動をつくろうというプロジェクト。逆転の発想で部屋を確保するところや、新しい関係者をどう取り込んでいくかという視点が、この企画で工夫されている。

「ルナシック」 | サンシック尼崎

大ホール前に、寺町を一望できるガラス張りの空間があることに注目し、あまり施設の利用がない夜の時間帯に何か開催できないか、というところから発案された。SUNの対となるLUNAから、月にちなんだ親子で楽しめるイベントの実施を考えた。

Point

ガラス張りの空間の活用とことばあそび

ガラス張りになった空間に着目し、サンシックという施設名をうまくことばあそびして「施設の夜の活用を増やしたい」という想いを叶えられている。今後、サンシック尼崎の定例コンテンツへの発展の可能性もある。

Now?

企画した内容はサンシック尼崎の館長 河野さんに提案され、2019年2月21日（木）にイベントが開催されました。当日は親子を含む8名の方が参加。企画チームが準備した材料を用いて、思い思いのフォトフレームを作りながら、参加者同士も話がはずみ、交流が生まれました。

